

第14回 むぎのえいが部「藍色夏恋」(2002年) Blue Gate Crossing

<ストーリー>

勝気な女子高生モンは、親友のユエチェンに頼まれて、チャンという水泳部の男の子にユエチェンからのラブレターを渡すことになる。だがチャンはユエチェンではなく、モンに恋をしてしまう。チャンの猛アタックを受けたモンは、彼にある重大な秘密を告白するのだった。

<スタッフ>

監督・脚本：イー・ツーイエン

1987年 -バッタ

1996年 -寂寞芳心倶楽部

2002年 -藍色夏恋

2005年 -about love アバウト・ラブ/關於愛 台北篇

2014年 -コードネームは孫中山

製作：ツイ・シウミン(徐 小明) 現・有線娛樂有限公司の代表取締役

1991年：ロアン・リンユイ 阮玲玉 (原題：阮玲玉)

2006年：ナッシング・イズ・インポッシブル (原題：情意拳拳、サンドリーム・モーション・ピクチャーズ)

2006年：墨攻 (サンドリーム・モーション・ピクチャーズ)

2007年：ツイイズ・ミッション (原題：雙子神偷、サンドリーム・モーション・ピクチャーズ)

2007年：天使の眼、野獣の街 (原題：跟蹤、サンドリーム・モーション・ピクチャーズ)

2008年：僕は君のために蝶になる (原題：蝴蝶飛、サンドリーム・モーション・ピクチャーズ)

2008年：李米的猜想 (サンドリーム・モーション・ピクチャーズ)

2008年：PLASTIC CITY プラスティック・シティ

<キャスト>

モン・クローウ：グイ・ルンメイ (桂綸鎂)

- ・サウンド・オブ・カラー 地下鉄の恋 (地下鐵 Sound of Colors) (2003年/台湾)
- ・遠い道のり (最遙遠的距離 The Most Distance Course) (2007年/台湾) - シャオユン 役
- ・言えない秘密 (不能說的秘密 Secret) (2007年/台湾) - シャオユウ 役
- ・停車 (停車 Parking) (2008年/台湾/※2009 大阪アジア映画祭で上映) - 陳莫の妻 役
- ・台北カフェ・ストーリー (第36個故事 Taipei Exchanges) (2010年/台湾) - ドゥアル 役
- ・海洋天堂 (海洋天堂 Ocean Heaven) (2010年/中国・香港) - リンリン 役
- ・密告・者 (綫人 The Stool Pigeon) (2010年/香港) - ディー 役
- ・ドラゴンゲート 空飛ぶ剣と幻の秘宝 (龍門飛甲 Flying Swords of Dragon Gate) (2011年/中国・香港) - ・
チャン・シャオウエン 役
- ・GF*BF (女朋友。男朋友 GF*BF) (2012年/台湾) - リン・メイバオ (林美宝) 役
- ・薄氷の殺人 (白日焰火 Black Coal, Thin Ice) (2014年/中国・香港) - ウー・ジージェン 役
- ・(美男的意外 Beautiful Accident) (2017年/中国) リュザン (李雨燃) 役

チャン・シーハオ：チェン・ボーリン (陳柏霖)

- ・最後の恋、初めての恋 (2003年)
- ・五月の恋 五月之戀 (2004年) - 阿磊 (アレイ) 役
- ・西遊記リローデッド 情癡大聖 (2005年) - 孫悟空 役

- ・シュガー&スパイス 風味絶佳（2006年） - マイク 役
- ・暗いところで待ち合わせ（2006年） - 大石アキヒロ 役
- ・ブッダ・マウンテン ～希望と祈りの旅 観音山（2010年） - 丁波 役 - 第23回東京国際映画祭等で「ブッダ・マウンテン」の邦題で上映
- ・再見，在也不見（2016年） - 陳總經理、陳明德、陳志彬 役

<イー・ツーイェン監督が同性愛をカミングアウト>

2016年12月1日、映画「藍色夏恋」などで知られる台湾のイー・ツーイェン（易智言）監督が、自身が同性愛者であることをカミングアウトした。その内容は、同性愛者である自分と、それを知った両親への気遣いを克明に記したものだ。イー監督は29歳の時、自身が同性愛者であることを両親に告げ、その後は家の中で「なかったこと」のようになってきたという。これまで世間に公表しなかったのも、両親を苦しめたくなかったため、生前に自分の恋人に会わせることは一度もなかったと記している。

さらにイー監督は性的少数者やその両親に向け、「命には限りがある。愛する人と理解し合う時間を逃してはいけない」と、自身の経験を交えて語っている。

原題は「藍色大門」というタイトルで、“若い頃は、毎日大きな門をくぐり抜けるように何かが起こっている”というような意味らしい。

パンフレットの中で、川本三郎氏（評論家）が、「思春期という特別な時間」というタイトルで、実にいいことを書いている。それは今、日本の少女には少女期や思春期という特別な時期が消えつつあるという指摘だ。その理由は、十代の子供たちがあまりにも早く異性とのセックスを体験してしまうから。セックスを知ってしまうことで子供だけが持っている繊細な感情を失ってしまうというわけだ。「それに比べて、この映画の台湾の十代は、セックスを知らないがゆえに、少女期、思春期という特別な時間を生きている。もう子供ではない、といって大人でもない。人生のほんのある時期、微妙で危うい思春期の感情のなかで揺れ動いている。この映画は彼らを終始温かくとらえていて、清潔感あふれるみずみずしい青春映画になっている。」

モン・クローウとチャン・シーハオは高校生だから移動の手段は専ら自転車。従って自転車のシーンが数多く現われる。これは一方では、アパートの前に置いてある自転車に無造作に飛び乗って出かけることによって生活感にリアリティを持たせるとともに、他方では自転車のペダルを力強くこぎ、走り抜けていくことによって、主人公たちの解放感や疾走感をうまく表現するためだ。

<2000年以降の台湾映画>

長い間低迷を続けていた台湾映画界も2010年ごろから好調に転じた。そのきっかけとなったのが2008年のウェイ・ダーション監督作品『海角七号 君想う、国境の南』で、監督も俳優も無名だったにもかかわらず、台湾映画業界史上、ハリウッド映画の『タイタニック』に次ぐ、歴代2位の興行成績を収めた。その後、同監督の『セデック・バレ』、葉天倫監督の『鶏排英雄』、ギデنز・コー監督の『あの頃、君を追いかけた』とヒット作が続き、国内だけでなく、中国をはじめ、海外でも好成績を上げている。近年では、馮凱監督の『陣頭』（2012年）、チェン・ユーシュン監督の『祝宴!シェフ』（2013年）、邱瓌寛監督の『大尾鱸鰻』（2013年）、マー・ジーシアン監督の『KANO 1931 海の向こうの甲子園』（2014年）、葉天倫監督の『大稻埕』（2014年）が3億円以上の興行収入をあげるヒット作となった。なお、2000年代にヒットした『海角七号 君想う、国境の南』『セデック・バレ』『KANO 1931 海の向こうの甲子園』『大稻埕』はいずれも日本統治時代を舞台としているが、同時代を描いたかつての映画（1975年『梅花』、1987年『稻草人』、1989年『悲情城市』、1994年『多桑/父さん』など）に比べ、台湾アイデンティティを強く持つ層に支持されている。同じ理由で、台湾語や方言を使った映画も増えている。